

# 越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2009年

No. 2

## 二〇〇九 東海北陸伝統工芸祭

平成二十一年十月二日（金）～四日（日）の三日間、高岡市民体育館で、東海北陸伝統工芸祭が開催され、実演を兼ねて、物品販売も行いました。

当保存会長の木村昭二さんは、笠骨製作実演を行いました。約二メートルの竹を割る作業から始まり、幅一センチ弱に小割りした竹を小刀で削り、徐々にしならせながら丸め、きれいな円形を造ることが出来るのは、長年の経験を持つ木村さんならではの熟練技。来場者の目を集めていました。



城山みよさんと越後喜代さんは、笠縫いの実演を、城山ミキさんは、「しかけ」と「のすけ」の実演を行いました。来場者の多くは、「小さい頃よく親にやらされた。懐かしいわ」と、実演者の手元を見て感心していました。土産物の販売も好評で、越中福岡の菅笠コーナーは、大盛況でした。

## 新理事紹介

八月二十八日、第1回理事会にて、新理事として岸野有三さんが、就任され、今後の保存会の活動にお力添えをいただく事になりました。何卒、よろしくお願い致します。

## 菅笠地蔵設置

重要無形民俗文化財指定を記念して、フランス料理店ぱりじえんぬ（北陸銀行福岡支店そば）北側に、菅笠地蔵が、設置されました。道行く人の安全を祈っています。是非一度、見に行ってください。



# 菅笠 展示

九月十六日から二十五日の間、JR福岡駅構内において、菅笠に関する説明パネル展示と菅笠の展示を行いました。

つくりもんまつり開催時には、県内外からたくさんの方の観光客で賑わい、福岡町の菅笠の魅力を伝えることができました。



# 菅笠ミニ知識②

## 海を渡った福岡の菅笠

昭和二十八年頃から三十八年頃まで、アメリカのフロリダやカリフォルニアへ、福岡町の菅笠が、およそ三十万枚ほどスリースターズ貿易社、日京貿易社の手で輸出されていました。海水浴場などで売られ、人気があったそうです。

しかし、あまりの出来のよさにより、関税が高くなり輸出できなくなり、その後から昭和三十五年頃までは、東南アジアへ輸出されていました。



# 掲載情報

☆ありーて 2009 秋  
高岡市男女平等推進センター発行

「菅笠づくりは、私の友だち」として南すめさんが、紹介されています。

☆とやま夢大陸 十月号  
富山コンベンションビューロー発行

当保存会の日和副会長が、「小矢部川氾濫原と菅笠の製作」というテーマで、執筆されました。

# 編集後記

山辺の一角のスゲ田に紐を張り、後ずさりしながら、スゲの植付をしている会員さんを見ました。

会員さんは、今年八十歳の女性。聞けば、今年は、子苗が少なく、頼みの耕田の為、なかなか思い通りにいかないと言っていました。

山の日没は、とにかく早いもの。私は、体験の為、ズボンをめくりあげ、沼地化した水田に足をとられながらも、教わったとおりに植付をしてみました。うまく育つことを祈り、スゲ田を後にしました。

(糸岡・富山)